

あかれんが

† 復十字病院だより

〒204-8522 清瀬市松山3-1-24
TEL : 042-491-4111 <http://www.fukujuji.org>

【発行責任者】 院長 後藤 元



数年前に中国桂林で開かれた医真菌症研究会に招かれました。途中上海に一泊しましたが、自動車渋滞はものすごく、遠慮などせずにクラクション鳴り放題でした。見ていると場所も構わないUターンも多く、交通警察官が汗だくで違反車を捕まえているのですが見る間に2台も3台も捕まっています。

深夜でもワーンと都市騒音が立ち上がってくるのですが、急に目が覚めたので窓から外を見ると、ひとときの静寂でした。写真は、本当はスモッグなのでしょうが明け方の意外な霧に沈む都市美に見えます。この後すぐまた騒音の一日が始まります。（倉島）

巻頭言 思い起こせば

院長 後藤 元

思い起こせば大学を卒業した時点で、感染症学に関する知識は、殆ど何も持ち合わせていなかった。したがって勤務の最初から、この駆け出し医師が先輩の手を焼かせることになったのは、当然のことであった。

教えられた第1のことは、何よりもまず、手を洗うことであった。ともかく何度でも手を洗え、手を洗ってさえすれば、大概の院内感染はふせげるのだと。思いがけずこの教えは、爾来20年を経た後、MRSAの蔓延に伴い再び甦った。MRSAの過半は、医療従事者の手指を介して感染する。そしてこの感染は、手洗いの励行によって菌止めをかけられると。手洗いは、再び医学論文のキー・ワードにまで取り上げられるに至った。

第2は、聴診器をポケットにきちんとしまうことであった。汚染された医療機器を首にかけたまま歩いてはいけない。ましてそんな格好で食事をするなど論外だ。ただし、この流儀はMRSAの増加にびくともせず、現在も若い医師の間では、なんととはなしに格好よいスタイルとして、しばしば生き残っている。

第3は、白衣であった。病棟で汚染された白衣のまま研究室に入ることは、厳しく制限されていた。したがって病棟用と研究室用の2枚の白衣をしょっちゅう着替える必要があった。しかし研究室用の白衣といえども、感染実験の後では到底清潔とはいいたくないこと

を、病院の食堂主任はよく承知していた。したがって何人も食堂に入るに際しては、白衣は脱がなければならなかった。近年、ガウンテクニックと少しくスマートな名称で呼ばれるようになったこの手技は、ここでは、すでに遥か以前から実行されていたわけである。

このように、長い歴史の中で築かれてきた周到な院内感染対策は行われてはいたが、それは未だ十分に完成されていたわけではなかった。手は洗い、白衣は着替えていたものの、赤沈用血液は、直接、口で吸い上げられていたし、血算用のメランジュールも同様であった。採血後の注射針は、律儀にもリキャップされており、その際、幾度も針刺し事故を繰り返していた。自動血算器が導入され、血液の吸い上げ自体が必要なくなり、またリキャップが中止され、セーフティチップが用いられるようになるまでには、さらに何年かの歳月が必要であった。

駆け出し医師の時代から、あるいはさらに遡って病院の創設以来、ここに至るまでにどれほどの時が流れたのであろうか。そしてその間に、どれほどの医療感染事故があり、どれほどの人々の苦しみ、犠牲があったのだろうか。手を洗いながら、白衣を着替えながら、ときにはこうした、ささやかな歴史を思い起こす必要もあろう。

今年も昨年に引き続いて 第2回複十字病院市民公開講座 「肺MAC症とは？」を開催

臨床研究アドバイザー 倉島 篤行

10月4日午後2時から清瀬市北口のアミューホールで第2回複十字病院市民公開講座「肺MAC症とは何？」が複十字病院と大正富山医薬品株式会社の共催、清瀬市医師会後援で開催されました。

今年は、庶務課中村さんから素晴らしいセンスのポスターが作られました。

昨年の第1回開催日は台風が関東直撃直後、今年はこれから台風が襲来するというまさかの日に開催されましたが、昨年と同様約180名の患者、市民が参加されました。テーマなどは第1回と全く同じ構成で行ったので参加者が減るかもと心配したのですが、昨年も参加した人は20%以下、80%が今回新たに参加された方でした。

当日直前の催し終了の関係で開会が遅れましたが、開場を待ち望んでいる方どうしでの親睦が深まったようです。

森本先生による「肺MAC症とは何か?」、佐々木先生による「治療はどうするのか?」、白石先生による「手術はどうするのか?」という20分ずつの講演の後、パネルディスカッションが行われました。

昨年の第1回の時、次回は是非手術を受けた方の体験談を聞きたいという要望があり、肺MAC症で左右両側の手術を体験し、今は元気に働いているTさんのお話しをもとに質疑応答が活発に行われました。「わかりやすい解説で良かった」、「来年も是非開いてほしい」、「国全体での研究がもっと進展してほしい」などの声が寄せられました。

長年努力してきましたが、今年はいじめてこの病気の厚労省研究班が発足し、我々も参加、現在2007年以降行われなかった全国調査を7年ぶりに行っている最中です。もうじき最終的な結果が出ますが暫定結果では前回の約2.6倍という世界で最も高い罹患率で、近年この病気が増えている事が裏付られています。

第1回公開講座のパネルディスカッションで「咯血から始まった私の病気」を話されたTさんが、「最近インターネットでも、この病気についての記事が比較的多く見られるようになったが信頼できるかどうか不安な内容が多く、是非複十字病院から信頼できる内容を発信してほしい」と50問のQ&Aを寄せられ、1年以内に作成すると公約をしました。ギリギリ第2回開催までに複十字病院ホームページの中に非結核性抗酸菌症Q&Aが掲載されました。



複十字病院呼吸器センター 公開市民講座
肺MAC症とは何?
入場無料
申し込み
不要

日時 **10/4** 土 午後2時～4時30分
開場午後1時30分

場所 清瀬アミューホール(7F)
東京都清瀬市北町9-2-11 清瀬駅北口徒歩2分
電話:042-495-7111

講演 朗会長 複十字病院呼吸器センター長 白石 祐治
朗会副会長 複十字病院臨床研究アドバイザー 倉島 篤行

1. 肺MAC症とは何か?
複十字病院呼吸器センターの呼吸器内科医長 森本 誠三
2. 治療はどうするのか? —お薬と副作用
複十字病院呼吸器センターの呼吸器内科医 佐々木 誠定
3. 手術はどのような時にするのか?
複十字病院呼吸器センター長(呼吸器外科) 白石 祐治

討論 パネルディスカッション
倉島 篤行・渡辺 真希子・森本 誠三

朗会 複十字病院呼吸器センター
朗会副会長 倉島 篤行

共催 公益財団法人 複十字病院内科 大正富山医薬品株式会社
後援 清瀬市医師会
お問い合わせ 複十字病院 電話 042-491-4111

複十字病院乳腺科開設10周年 —これからの乳がん医療に向けて—

乳腺センター センター長 武田 泰隆

毎年この時期に行っております、複十字病院乳腺センター主催「第10回乳がん市民公開講座」は、平成26年11月9日に表題のようなテーマで清瀬市竹丘地域市民センターにおいて開催させていただきました。

平成16年年10月に、複十字病院に乳腺科が開設されてから10年が経つことから、この10年を振り返って、私からお話させていただきました。当科は、当初より「患者中心の医療をトータルに行う」ことを目標に掲げ、この間に乳がんの診療体制構築ために行ってきたことを、診療部門と支援部門に分けて解説致しました。診療部門では、患者さんにQOLの高い医療を提供する目的で導入した「乳癌内視鏡手術」とOSNA法導入



市民公開講座の様子

を含めた「センチネルリンパ節生検」について、また支援部門では、「チーム医療」と「医療連携」の構築に関して、乳腺科が中心となって行ってきた「外来化学療法室」(平成18年オープン)、「緩和ケアチーム」(平成18年より活動)、「心理カウンセリング」(平成19年より介入)、「リンパ浮腫外来」(平成19年より開始)の開設を含め、「乳がんチーム医療を考える会」、「市民公開講座」、「患者会(秋桜の会)」の立ち上げについても話させていただきました。

そして、今回の主要テーマであります「これからの乳がん医療に向けて」について、診療部門では、2013年より「保険適応となった乳がん術後の乳房再建」について杏林大学形成外科の菅浩隆先生に講演いただきました。また、支援部門としては、「遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する取り組み」という内容で当院臨床検査診断科の野内英樹先生に、平成26年10月より自費化を導入した「リンパ浮腫ケアに対する取り組み」について当院リンパ浮腫外来の医療リンパドレナージセラピスト中村亮子看護師にお話いただきました。いずれも、乳腺科で現在取り組み、近々導入予定の内容でありました。

当日は天候のすぐれないにもかかわらず、60名超の市民の皆さんにお集まりいただきました。アンケートによりますと、新しい情報についての肯定的なご意見が多くみられ、今回の講演会は一定の役割は果たせたと思っております。後藤先生にもご多忙の中お出でいただき、院長としてご挨拶いただきました。また、当院事務部庶務課の方々には会場の設営から後片付けまで全面的にご協力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。



乳腺センターセンター長
武田 泰隆



臨床検査診断科長
野内 英樹



医療リンパドレナージセラピスト
看護師 中村 亮子



複十字病院
院長 後藤 元



杏林大学形成外科
菅 浩隆 先生

MRI（磁気共鳴断層撮影装置）と

マンモグラフィ装置（乳房X線撮影装置）が新しくなりました

放射線診療部診療主幹（放射線診断科） 黒崎 敦子

複十字病院放射線診療部からのお知らせです。

2014年12月から、MRIはMAGNETOM Aera XQ（シーメンス社製）に、マンモグラフィはMAMMOMAT Inspiration（シーメンス社製）に、装置が更新されました。

MRIは、これまでの1.0テスラよりも磁場強度の強い1.5テスラの高性能機器が導入され、より高精細の画像を提供できるとともに、検査適応が拡大します。脳神経領域（脳梗塞、認知症、腫瘍など：VSRADやtractography）、整形外科領域（骨や関節など）、乳腺、消化器領域（肝臓、膵臓、胆道系など）、婦人科領域（子宮や卵巣）、骨盤部領域（前立腺、膀胱、直腸など）、胸部領域（縦隔、胸壁など）、血管系、あるいは拡散強調像を用いた腫瘍の診断など、頭の前から足先までのほぼすべての領域が適応になります。



MRI MAGNETOM Aera XQ

マンモグラフィ装置は、平面検出器（フラットパネルディテクター）を採用している機器のため、高い解像力と濃度分解能が期待できます。微細石灰化や微小病変がより明瞭に検出でき、乳癌の画像診断の精度がさらに高まります。

今春のCT更新、3Dワークステーションの導入に加え、MRI、マンモグラフィ装置を更新したことで、当院は北多摩地区の中でも最新で高精度の機器を有している施設になりました。院内はもとより地域の患者さんにも役立つ質の高い画像および画像診断を提供していきます。検査の適応やオーガ方法などについても、どうぞお気軽にご相談ください。



マンモグラフィ MAMMOMAT Inspiration

事務部 経理課副部長 佐藤 利光

20年以上続いた一般食堂が2014年10月を以て閉鎖されました。運営会社オーシャンフーズの社長が年の初めにお亡くなりになり、事業の継続が困難となったためです。この食堂に至るまでの経過を知っている職員は今や一人もいませんが、これまで数回業者の交替があったのは事実です。病院の食堂経営は簡単ではなく、中には2年持たずに撤退した有名業者もいたと聞いています。今回の食堂見直しに際し、ドトールコーヒー、日本サブウェイなどのカフェ系から、企業食堂の運営専門業者まで多数と面談し検討をお願いしましたが、結局、当院の規模では採算が取れないとすべて断られました。社食の展開で有名になった健診器具メーカー「タ〇タ」にも連絡をしましたが、電話の相手は、関連会社から連絡させると言ったきり、なしのつづてでした。そんな現状の中、何はともあれ20年以上も当院で食堂を続けてこられたオーシャンフーズにはあらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、食堂跡地には、昨年12月からニューヤマザキデイリーストア（NYDS）がオープンしました。2011年4月にはそれまでの古い売店に代わって小さなコンビニ・Yショップができましたが、今回はこれをバージョンアップさせ一般のコンビニと遜色ない内容となりました。従来のYショップ同様、NYDSも山崎製パンが全国展開する店舗なので安心して任せることができます。食

堂という形態は諦めざるを得ないけど座って飲食する場所も少しは残したい、という病院幹部の声もあり、売り場面積100m²の中に14席のイートインスペースを設けました。これはNYDSの標準の形ではなかったのですが、先方が要望を聞き入れてくれて実現しました。本当なら入口を広くして店内をよく見えるようにしたいところですが、一昨年、東京都の補助金で実施した耐震工事のため、構造壁の変更が一切できなくなったことをどうかご理解下さい。

今度の営業時間は、平日8時～19時、日・祝8時～17時です。これで始業前にイートインスペースでコーヒーを一杯、ということも可能になりました。

食堂時代は平日、昼食の提供だけでしたが、朝夕に店内でちょっとした飲食をできるようになったことは、来訪者にとってもメリットになることでしょう。



店内



売店入り口

2A・3A病棟リニューアル工事について

事務部 経理課課長代理 荒井 友範

9月から11月にかけて本館2A・3A病棟のリニューアル工事を実施いたしました。当院本館は、昭和51年建築で今年で38年目を迎えます。私自身、今年で38歳となり本館とは同級生。どこか運命的なものを感じつつ今回の工事を担当いたしました。

本館と言えば、昨年は耐震補強工事（東京都補助金）を実施いたしました。そのため適切なメンテナンスを施しつつ、患者さんの安心と安全の為、もうしばらく本館には頑張ってもらえないといけません。その一環として患者さんに快適な入院生活を送って頂くために2A・3A病棟の有料部屋リニューアルを実施いたしました。

リニューアル方法は多々ありますが今回は、パラマウントベッド(株)のリモデルプランを採用しました。ショールームや実際にリモデルプランを実施した病院に見学に行き、院内で検討を重ねた結果、「病室の改装に加え電動ベッドの更新が同時に行える」プランであること

が決め手となりました。

リニューアルにあたり、病棟ごとにテーマ設定を行いました。2A病棟個室は「未来への光をイメージした黄色」をテーマに。3A病棟個室は「森林浴をイメージした緑色」をテーマに。3A病棟特別室は「落ち着いた空間」をテーマに茶色基調の部屋に。有料4床部屋については、両病棟共通で間仕切家具を導入し、準個室風にリニューアルを実施いたしました。

工事期間中は、ベッド移動を含め先生方、病棟のスタッフ、ご入院中の患者さんにもご理解をいただき約3ヶ月間にわたって実施させていただきました。関わっていただきました多くの方々に、この場を借りて改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。建物の構造上、必ずしも満足の行く仕様になっていない部分はまだありますが、患者さんにとって安心、快適な入院生活を送っていただけるよう可能な限り対応を行っていきたいと考えています。



2A病棟個室



3A病棟個室



特別室



有料4床室

「みんなの栄養展」 ご存知ですか？

栄養科 科長 川崎 由香理

今年のテーマは、「健康で野菜生活～すくすく いきいき すこやかに～」

「健康日本21」の目標である『1日野菜350g以上摂取』達成への働きかけを目的としています。

2014年度「栄養展」

9/7 日 清瀬市健康センターにて「清瀬市健康まつり」との共催（170名来場）

11/30 日 『イオン東久留米店』にて（約400名来場）

*「栄養展」は、『東京都福祉保健局保健制作部健康推進課』の「東京都栄養改善普及事業」を「東京都栄養士会」が受託し、毎年多摩地区では5つの保健所ごとに開催しています。



「体組成計」や「血管年齢」「肺年齢」などの測定には、住民のみなさまも関心が高く人気があります。実際に数字で体を表すことで、健康管理への関心も高まるようです。



いつも食べている野菜をはかりに載せて、1日350g摂れているか試したり、1日350gの野菜を使った料理を展示したり、そのレシピを配ったりしました。

東久留米市イオンでは、「健康体操」、絵本や野菜の塗り絵、バランスコマを使った「子どもの食育」も行ない、子どもから大人まで楽しんでいただけたようです。



日ごろ、かかわりの少ない他施設の栄養士と、研究会を通して日常業務の相談や情報交換を気軽に行なえることもありがたいことです。また、地域の方々のために情報提供したり還元したりできることは栄養士として嬉しいことです。



「健康日本21（第二次）」の柱は、健康寿命の延伸とそれを可能にする地域社会の形成です。「栄養展」は、北多摩の様々な施設で働く栄養士が参加して、市民と一緒に健康と栄養を考える、全国のモデルともいえる素晴らしい取り組みです。9月7日、清瀬市健康センターでは、皆さんの活躍ぶりを見せて頂き、とても嬉しかったです。

（結核予防会理事長 工藤 翔二）

院内レクリエーション

劇団四季『リトルマーメイド』観賞

栄養科 濱田 知子

11月22日いい夫婦の日に、食事会→観劇のレクリエーションに参加してきました。

駅から会場まで迷子になり焦りましたが、どうにか乾杯には間に合い少々忙しい食事時間を過ごし、いよいよ「劇団四季・リトルマーメイド」。

色鮮やかな海の世界。海の中の表現のため人魚達はワイヤーに吊られ海の中を泳いでいるよう、吊られている感じはまったくない素晴らしい歌声。海と地上の瞬時の変化にも驚きながらのあっという間の2時間30分でした。

食事・観劇と日常を忘れ楽しいひと時を過ごすことができました。レク委員のみなさま おつかれ様でした。



新事務部長就任挨拶

複十字病院 事務部長 菊地 とおる

バブル経済が破綻した平成2年、私は結核予防会へ就職しました。

社会人になって3年間勤務した会社を退職し、再就職した会社をまたもや3年で退職、「こんな堪え性のない子だったなんて……情けない」と親は泣きました。

親には申し訳ないが、辞めてしまったものは仕方がない……と開き直り、3度目の就職活動の末、結核予防会へ就職しました。

あれから24年……。

堪え性がなく3年しか勤められなかった私が勤続年数記録を更新中です。

この間、本部、複十字病院、新山手病院の3箇所を行ったり来たりしてきましたが、複十字病院には2006年4月から2009年9月までの3年半、経理課へ勤務していました。

その後、新山手病院に5年勤務した後、今回2度目の複十字病院勤務となりました。

5年の間で様々な変化がある上に、最近老化の激しい

頭では以前の複十字病院での記憶をたどることが難しく、いろいろな方に再度初歩的なことを含めて教えていただいています。

さて、2025年に向けて、医療提供体制が大きく変わろうとしています。その背景は様々ありますが、少子化・高齢化による社会保障費の増加は深刻です。

当院の属する北多摩北部医療圏では、2025年には15～64歳人口が4.8%（約2万3千人）減少、65歳以上が23.8%（約3万7千人）増加と見込まれています。15歳未満の子供たちは1万6千人（17.5%）も減ってしまいます。

これだけ人口構成が変化すると、受療行動に大きな影響を及ぼすことになります。

今後は、法人がもつ医療資源を有効活用し、法人一体でこの変化に対応していかなければなりません。今年も引き続きみなさんのご協力をお願いいたします。

最後に、今年一年が公私共に幸多い一年になりますように……。

JICAの研修生が来院されました

9月11日（木）にJICA（独立行政法人国際協力機構）主催の「5S-KAIZEN-TQMによる保健医療のサービスの質向上」にアフリカ各国から参加している研修生16名が来院されました。この研修は5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）に基づくKAIZEN（改善）に係る実践的な事例分析を通じて、指導・普及に必要な知識・技術・リーダーシップを習得することを目的として開催されており、日本の医療の現場として当院にて視察が行われました。受付から診察までの動線、薬品や医療資材の在庫管理、病棟における医療機器・医療器具の管理など、当院

でどのように業務効率の改善や医療の安全性の確保を行っているかを見学して頂き、参加者からは「日本で我々と異なる工夫を見ることができて参考になった」「バーコードを使った物品管理や伝票を使った医療機器管理の仕組みなど大変参考になった」等の感想がありました。



～「魂の男」～ 最後の指導

防災委員会 庶務課 瀧口 電太

本年も清瀬自衛消防審査会に参加して、結果、見事女子隊が初優勝する事が出来ました。本当におめでとうございます！ その他混成隊も奮闘して準優勝、男子隊も敢闘賞になりました。

さて複十字病院の長い歴史の中で、清瀬消防署が主催するこの審査会は1回目から参加して、今年で40回目の連続出場を果たしました。

当院は医療機関という患者さんの命を預かる立場上、医療は勿論、それと同等に大事な「消防・防災」を重大任務と認識し、数多くのファイヤーマンとファイヤーガールを輩出し続けてきた歴史がありますが、それを支えてきた陰には、1回目から本年まで約40年間、病院の保全・保安を守り続け、歴代の審査会参加隊を指導し、隊員達の意識を変えさせてきた「魂の男」が当院にはいるのです！

中央監視室長の小林建夫さんです。本審査会は小林さんが今年定年するにあたり、審査会を指導する最後の年になりました。

指導にあたっていただいたその間、当人にしかわからない苦勞・苦悩がありながら、病院の保全を守り抜いている

誇りを胸に、毎年賞を取らせ常勝軍団に築き上げた魂に、本当に頭がさがりますと同時に過去の自衛消防隊参加隊を代表して「本当に長い間ありがとうございました」とこの場をお借りして伝えさせていただきます。

今年の審査会の閉会式、清瀬市長の挨拶の際に「複十字病院小林さん、本当にお疲れ様でした！」という言葉に、参加隊や当院関係者・勿論当人も、本当に驚いたと同時に感動致しました。小林さんを筆頭に、過去の先輩方が築いてきた、複十字病院伝統の「消防魂」を、これからも我々が受け継いでいきたいと思います。今回参加隊の練習日程を調整していただきました職場責任者の方、また指導に携わっていただいた中央監視室の方や、過去大会に参加していただいた各職場の自衛消防隊OBの方々にもこの場をお借りして御礼申し上げます。



出場隊

〈男子隊〉

〈混成隊〉

〈女子隊〉

敢闘賞

放射線科 菅島（2013年入職）
三武サービス警備 蓮見（2014年入職）

見事
準優勝！

臨床検査科 宮良（2014年入職）
庶務課 中村（2014年入職）

見事
初優勝！

看護部 島貴（手術室 2010年入職）
大島（2S 2014年入職）

複十字病院の理念

複十字病院は、質の高い温かな医療と看護を提供するとともに、医療連携を推進し地域社会が求める包括的な医療の実現を目指します。

● 病院運営の基本方針 ●

1. 呼吸器疾患、がん、生活習慣病を柱とした質の高い温かな医療と看護の充実を図る。
2. 国の高度結核専門施設、東京都（肺がん、大腸がん、乳がん）診療連携協力病院としての役割をはたす。
3. 複十字病院登録医会を中心に医療連携を推進し、在宅医療、救急医療、災害時対応など地域医療に貢献する。
4. 健診事業を発展させ、疾患の早期発見と予防医療を推進する。
5. 複十字病院『患者権利章典』を尊重する。

複十字病院『患者権利章典』

患者のみなさまは、人間としての尊厳のもとに医療を受ける権利があります。医療は患者と病院がお互いの信頼関係のなかで共につくり上げるものであり、みなさまに主体的に参加していただくことが必要です。病院と病院職員は「患者中心の医療」の理念のもとに、複十字病院『患者権利章典』を守り、みなさまの医療に対する主体的な参加を支援します。

● 患者さんの権利 ●

1. 人格を尊重され、思いやりのある最新で最良の医療を受ける権利があります。
2. 病気の診断・治療方針・今後の見込みについて知る権利があります。
3. 十分な説明を受けた後、ご自身の選択に基づく治療を受け、また、法の許す範囲で拒否する権利があります。
4. 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利があります。
5. プライバシーを保護される権利があります。
6. ご自身の診療記録、治療費の内容について開示を求める権利があります。
7. 退院後のことについて指導を受ける権利があります。

● 患者さんにご協力いただくこと（責任）●

1. ご自身のこれまでの病歴や現在の病状について担当医に詳しくお話し下さい。
2. 病気を治すために、ご自身も必要な努力をして下さい。
3. 治療を継続して受けられない場合は、担当医師にご相談下さい。
4. ご自身や他の方の診療、入院生活に支障を与えないようにして下さい。

人事異動

2014年9月15日～2014年12月14日まで

【退職】

(看護師)	早瀬 裕美子	9/30
(労務)	小林 建夫	11/14
(看護師)	山口 周子	12/31

【人事発令】

(事務)	菊地 とおる	10/1	事務部長	(配置換え)
(事務)	武内 昭二	10/1	結核予防会本部経営企画部長	(配置換え)
(看護師)	鷹鷲 昌子	10/1	相談支援センター付部長	(昇任)
(看護師)	吉垣 ゆかり	11/1	看護部師長 手術室	(昇任)

行事予定

1. 院長年頭挨拶

日時▶2015年1月5日(月)
12:00
場所▶複十字病院 講堂

2. 職員健康診断

日時▶2015年
1月7日(水)～9日(金)
場所▶結核研究所 講堂

年末年始休診

2014年12月30日(火)～2015年1月4日(日)
*診療科ごとに異なる場合があるため、予約センターにて事前にご確認ください。

清瀬高校「奉仕」の時間

夏から継続して、お隣の都立清瀬高校から草取り・落ち葉拾いのお手伝いに来ていただいています！

とってもきれいになりました。ありがとうございます！



編集後記

4月から新卒として就職してはや10ヶ月。複十字を知るために、「あかれんが」は最適の教科書でした。普段はあまり関わりのないことでも、院内でどんな人が働いているか、何が起きているかを読んでいただき、患者様と職員、職員同士のコミュニケーションのきっかけになれば嬉しいです。(N)